

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3103176号
(U3103176)

(45) 発行日 平成16年7月29日(2004.7.29)

(24) 登録日 平成16年5月19日(2004.5.19)

(51) Int. Cl.⁷

E 0 4 D 13/16

F I

E O 4 D 13/16

F

評価書の請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2004-410 (U2004-410)
(22) 出願日 平成16年2月4日(2004.2.4)(73) 実用新案権者 501494311
日本窯業株式会社
東京都台東区北上野1-7-3 諏訪ビル4
F
(74) 代理人 100096024
弁理士 柏原 三枝子
(74) 代理人 100125520
弁理士 高橋 剛一
(72) 考案者 岡村 芳実
東京都足立区神明2-7-20
(72) 考案者 富澤 隆
東京都台東区北上野1-7-3 日本窯業
株式会社内

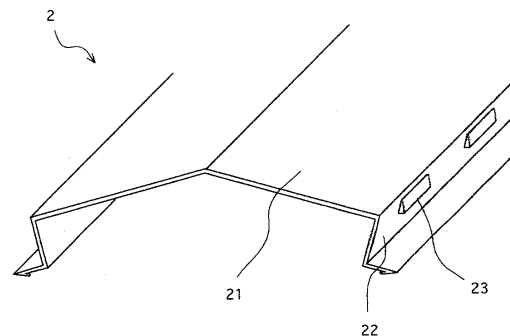
(54) 【考案の名称】 換気棟用台材および換気棟構造

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 排気棟の通気性と排水性を確保して、耐久性に富んだ棟構造を提供する。

【解決手段】 屋根頂部の棟構造であって、屋根基材の頂部の要所に通気口を設け、その上に換気棟用台材を固定し、さらにその上から前記換気棟用台材を包む形状の棟部材を載置してなる換気棟構造において、前記換気棟用台材が、屋根の頂部において前記屋根基材から浮いた状態で前記屋根基材と平行に延在する頂部支持台と、頂部支持台の下端部から延在し前記屋根基材に接地して前記頂部支持台を支持する脚部と、前記脚部の下端部から延在し開口部が下側を向いたコの字形の側部支持台と、前記脚部上部および側部支持台の両肩部に設けられた通気口とを具備するとともに、前記棟部材が、前記換気棟用台材における側部支持台の肩部通気口に対応する位置に通気口を有する。

【選択図】 図2



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

屋根基材の頂部に通気口が設けられた換気棟において棟を包む棟部材を支持する台材であって、屋根の頂部において前記屋根基材から浮いた状態で前記屋根基材とほぼ平行に延在する頂部支持台と、頂部支持台の下端部から延在し前記屋根基材に接地して前記頂部支持台を支持する脚部と、前記脚部の下端部から延在し開口部が下側を向いたコの字形の側部支持台とを具え、前記脚部の上部および前記側部支持台の両側の肩部に通気口が設けられていることを特徴とする換気棟用台材。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の換気棟用台材において、前記脚部と前記側部支持台との接続部に水抜き穴が設けられていることを特徴とする換気棟用台材。 10

【請求項 3】

請求項 1 または 2 に記載の換気棟用台材において、前記側部支持台の下側端部が、前記屋根基材より上の位置で内側に折り返されていることを特徴とする換気棟用台材。

【請求項 4】

請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の換気棟用台材において、前記脚部の通気口と、前記側部支持台の両肩部の通気口は、屋根の傾斜方向において互い違いに配置されていることを特徴とする換気棟用台材。

【請求項 5】

請求項 1 乃至 4 のいずれかに記載の換気棟用台材が、一枚の板状部材を複数回曲折して構成されることを特徴とする換気棟用台材。 20

【請求項 6】

屋根頂部の棟構造であって、屋根基材の頂部要所に通気口を設け、その上に換気棟用台材を固定し、さらにその上から前記換気棟用台材を包む形状の棟部材を載置してなる換気棟構造において、

前記換気棟用台材が、屋根の頂部において前記屋根基材から浮いた状態で前記屋根基材と平行に延在する頂部支持台と、頂部支持台の下端部から延在し前記屋根基材に接地して前記頂部支持台を支持する脚部と、前記脚部の下端部から延在し開口部が下側を向いたコの字形の側部支持台と、前記脚部上部および側部支持台の両肩部に設けられた通気口とを具えるとともに、

前記棟部材が、前記換気棟用台材における側部支持台の肩部通気口に対応する位置に通気口を有することを特徴とする換気棟構造。 30

【請求項 7】

請求項 6 に記載の換気棟構造において、前記台材における前記脚部と側部支持台との接続部に水抜き穴が設けられていることを特徴とする換気棟構造。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、換気棟用台材および換気棟構造に関し、特に、屋根頂部の通気性を確保して湿気がこもらないようにした換気棟構造およびこれを実現する換気棟用台材に関する。 40

【背景技術】

【0002】

この種の従来技術として、例えば特許文献 1 に開示された棟構造がある。この棟構造では、中央と左右側端とに山形部を形成した棟カバー受け部材を棟に固定し、その上から棟カバー材を載置固定する。棟カバー受け部材の中央山形部の斜面には通気開口部が設けられている。

【0003】

しかしながら、特許文献 1 の棟構造では、棟カバー受け部材において左右の山形部外側には通気開口部が設けられていないため、棟中央に入り込んだ湿気が十分に外部に排出されないという問題がある。また、棟カバー部材にも通気口が設けられておらず、全体とし 50

て通気性に対する配慮に欠けるものである。さらに、谷形部に入り込んだ雨水を排出する手段がなく、この部分に水分が溜まって黴び、木材の腐敗、棟構造の脆弱化などの問題を引き起こす可能性がある。

【特許文献1】特開平9 - 228569号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

解決しようとする問題点は、棟の頂部から出る湿気をうまく棟の外部に排出できないことと、部材間の毛細管現象などによって入り込む雨水をうまく棟構造の外部に排出できない点にある。

10

【課題を解決するための手段】

【0005】

本考案は、換気棟の通気性と排水性を確保して、耐久性に富んだ棟構造を提供することを目的とする。

【0006】

本考案に係る換気棟用台材は、屋根基材の頂部に通気口が設けられた換気棟において棟を包む棟部材を支持する台材であって、屋根の頂部において前記屋根基材から浮いた状態で前記屋根基材と平行に延在する頂部支持台と、頂部支持台の下端部から延在し前記屋根基材に接地して前記頂部支持台を支持する脚部と、前記脚部の下端部から延在し開口部が下側を向いたコの字形状の側部支持台とを具え、前記脚部の上部および前記側部支持台の両肩部に通気口が設けられていることを最も主要な特徴とする。

20

【0007】

この換気棟用台材において、前記脚部と前記側部支持台との接続部に水抜き穴が設けられていることが有効である。

【0008】

この換気棟用台材において、前記側部支持台の下側端部が、前記屋根基材より上の位置で内側に折り返されていることが有効である。

【0009】

この換気棟用台材において、前記脚部の通気口と、前記側部支持台の両肩部の通気口は、屋根の斜面方向において互い違いに配置されていることが有効である。

30

【0010】

この換気棟用台材は一枚の板状部材を複数回曲折して構成することができる。

【0011】

本考案に係る換気棟構造は、屋根頂部の棟構造であって、屋根基材の頂部の要所に通気口を設け、その上に換気棟用台材を固定し、さらにその上から前記換気棟用台材を包む形状の棟部材を載置してなる換気棟構造において、

前記換気棟用台材が、屋根の頂部において前記屋根基材から浮いた状態で前記屋根基材と平行に延在する頂部支持台と、頂部支持台の下端部から延在し前記屋根基材に接地して前記頂部支持台を支持する脚部と、前記脚部の下端部から延在し開口部が下側を向いたコの字形状の側部支持台と、前記脚部上部および側部支持台の両肩部に設けられた通気口とを具えるとともに、

40

前記棟部材が、前記換気棟用台材における側部支持台の肩部通気口に対応する位置に通気口を有することを特徴とする。

【0012】

この換気棟構造において、前記台材における前記脚部と側部支持台との接続部に水抜き穴が設けられていることが有効である。

【考案の効果】

【0013】

本考案の換気棟用台材は、屋根の頂部において頂部支持台を屋根基材から浮かせて配置したため、屋根基材頂部に設けられた通気口を塞いでしまうことがない。また、脚部上部

50

および側部支持台の両肩部に通気口を設けているため、屋根基材の通気口から外部まで空気の通路が確保される。さらに、脚部と側部支持台との接続部に水抜き穴を設けているため、毛細管現象等で脚部に雨水が入り込んでもすぐに排出される。以上より換気性に優れた耐久性に富んだ換気棟構造を提供できるという利点がある。

【考案を実施するための最良の形態】

【0014】

本考案を実施するための最良の形態を、添付の図面を参照しながら以下に詳細に説明する。

【実施例1】

【0015】

図1は、本考案の実施形態にかかる換気棟用台材の構成を示す図である。図1に示す台材1は、両側に勾配のある棟の頂部に配置されるものであり、左右対称に構成されている。図1に示すように、台材1は板状部材を複数回曲折させて形成され、屋根の頂部において屋根基材から浮いた状態で前記屋根基材と平行に延在する対の頂部支持台11と、頂部支持台11の両側下端部から延在し屋根基材に接地して頂部支持台11を支持する対の脚部12と、各脚部12の下端部から延在し開口部が下側を向いたコの字形状の側部支持台13とを具える。

【0016】

頂部支持台11と側部支持台13とは屋根基材に対して同じ高さに構成される。頂部支持台11の裏面には結露防止シート11aが設けられ、脚部12の裏面には防水シーラー12aが設けられている。側部支持台13の下側端部は屋根基材より少し上の位置で内側に折り返されている。これは上に載置される棟部材(棟包み)や屋根基材との間で毛細管現象により雨水を吸い上げないように、雨水の延在する屋根基材と接触しないように配慮したものである。

【0017】

脚部12の上部および側部支持台13の両肩部には通気口14が設けられている。図1に示すように、屋根頂部から近い通気口の部位ごとに14a~14cとすると、隣接する通気口14aと14b、通気口14bと14cは互い違いに配置されている。これにより、風で吹き付けられた雨水が直線的に通気口14c、14b、14aと通過して棟の中央に入り込むのが防止される。

【0018】

脚部12と側部支持台13の接続部には、一定間隔で水抜き穴15が設けられている。これにより、毛細管現象などの原因で脚部12の上側に入り込んだ雨水をそのまま排出することができる。なお、上述のように側部支持台13の下側端部は屋根基材より少し上の位置までしか延在していないので、排出される水を遮ったりすることがない。

【0019】

換気棟用台材1は酸化しにくい板状金属部材、例えばステンレススチール等を複数回折り曲げて形成することができる。ただし、換気棟用台材は所定の強度を保有し経年劣化が少ない素材であれば他の素材、例えばプラスチック樹脂などで成形してもよい。

【0020】

図2は、本考案に係る換気棟構造に用いる棟部材(棟包み)の構成を示す図である。図2に示すように、棟部材2は上述の換気棟用台材1を包む寸法形状に形成されている。すなわち、台材1の頂部支持台11から側部支持台13の先まで延在する対の斜面部21と、台材1の側部支持台13の端面に沿って屋根基材に接地する脚部22とを具えている。図2に示すように、脚部22には一定間隔で横窓23が設けられており、この横窓23は台材1の側部支持台13に設けた外側の通気口14cと同じ間隔で設けられており、棟部材2を台材1に載置したときにこれら横窓23と通気口14cが重なるように構成する。なお、図2に示すように、横窓23は雨が入り込まないように下側に向けて開口している。

【0021】

10

20

30

40

50

図3は、本実施例に係る換気棟構造を組み立てたときの構成を示す断面図である。図3に示すように、屋根基材31の頂部には通気口32が設けられており、ここから屋根基材内部が換気されるようになっている。なお、本明細書で屋根基材とは、屋根の頂部の野地板およびその上に設けられるスレートや平板瓦等を含む概念とする。この上に換気棟用台材1を載せて固定する。前述のとおり台材1の頂部支持台1の裏面には結露防止シート11aが張られているため、この部分が結露して屋根の内部に水滴が落ちるようなことがない。また、台材1が屋根基材31と接地する脚部12の裏面には防水紙ーラー12aが設けられているため、屋根の下流側から吹き付けられた雨水が屋根頂部に入り込むようなこともない。

【0022】

換気棟用台材1の上から、棟部材2を載置して固定する。なお、台材1や棟部材2の固定には適宜の場所に釘打ちまたはスクリューネジなどを用いる。上記のように棟部材2の横窓23が台材1の最も外側の通気口14cと重なるように配置する。これにより、屋根頂部の通気口32から空気を外部に導く棟部材の通気口23とが連続し、効率のよい棟の換気を達成することができる。また、換気棟用台材1は頂部支持台11と側部支持台13とで棟部材2を支える構成であるため、強固かつ確実に棟部材を固定しておくことができる。また、軽量の素材および構成であるため、棟の負担を少なくして寿命を延ばすことができる。

【実施例2】

【0023】

図4は、本願第2実施例に係る換気棟構造の構成を示す分解斜視図である。図4(a)が棟部材(雨おさえ)を示し、図4(b)が換気棟用台材を示し、図4(c)が屋根基材の野地板部分を示す。図4に示す第2実施例は、図1～図3に示すような両側勾配の屋根(例えば切妻屋根)ではなく、壁面の途中から屋根が延びる所謂ふき詰め部と呼ばれる部位の換気棟構造である。図4(c)に示すように、屋根基材41が壁面42との接続部には所定間隔で通気口43が設けられており、屋根内部の湿気が排出されるよう構成されている。通気口43には虫などが入り込まないようにフィルタ44が張られる。

【0024】

図4(b)に示すように、ふき詰め部に用いられる換気棟用台材5は、図1に示す台材1を左右対称でなく半分にした形状を有し、さらに頂部支持台51の上端部から上側に延びる接壁部55を有する。頂部支持台51から接壁部55にかけて裏側に結露防止シート56が延在している。その他の脚部、通気口、水抜き穴などの構成は図1に示す台材1と同様である。

【0025】

図4(a)に示すように、ふき詰め部に用いられる棟部材6は、図2に示す棟部材2を半分にした形状を有し、さらに斜面部61の上端部から上側に延びる接壁部62を有する。この棟部材6も、台材5の通気口に対応する位置に通気口63を具えている。

【0026】

図4に示すふき詰め部の換気棟構造は、図4(c)に示す屋根基材の頂部に彩色スレート、金属スレート、平板瓦などを配置し、その上から図4(b)に示す換気棟用台材5を固定し、さらにその上から図4(a)に示す棟部材6を載置して固定する。この場合、屋根基材41に設けた通気口43に対応するスレートや平板瓦の部分にも穴を設けるとよい。これにより、屋根基材に設けた通気口43から棟部材6の通気口62への連続性が確保され、屋根内部の湿気を外部に放出することができる。また、棟部材6の通気口62は下側へ向けて設けられており、また台材5の通気口は互い違いに設けられているため、屋根に吹き付ける雨が屋根の内部に入ってしまうことがない。また、台材5の脚部の上側に雨水が入り込むことがあっても水抜き穴から排出されるため、水分が溜まって腐敗したり崩落したりするおそれがない。

【0027】

以上、本考案の実施例について詳細に説明したが、本考案の技術的範囲は上記実施例に

10

20

30

40

50

限られるものではなく、本考案は様々な実施例として実現することができる。

【産業上の利用可能性】

【0028】

本考案は、屋根の湿気を確実に放出して強固かつ耐久性のよい棟構造を提供するものであり、両側勾配の屋根や片側勾配の屋根の頂部を乾式工法で仕上げる際に利用することができる。

【図面の簡単な説明】

【0029】

【図1】換気棟用台材の構成を示す斜視図である。(実施例1)

【図2】棟部材の構成を示す斜視図である。(実施例1)

10

【図3】棟部材用台材と棟部材の構成を示す断面斜視図である。(実施例1)

【図4】換気棟構造の雨おさえの構成を示す分解斜視図である。(実施例2)

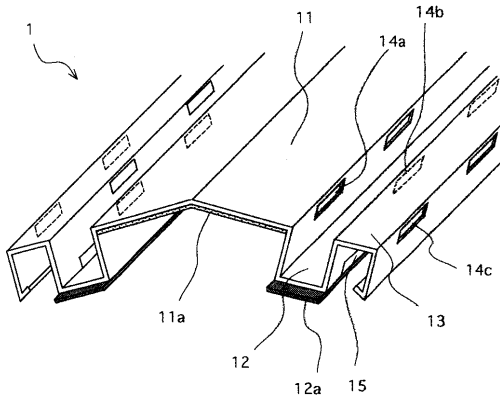
【符号の説明】

【0030】

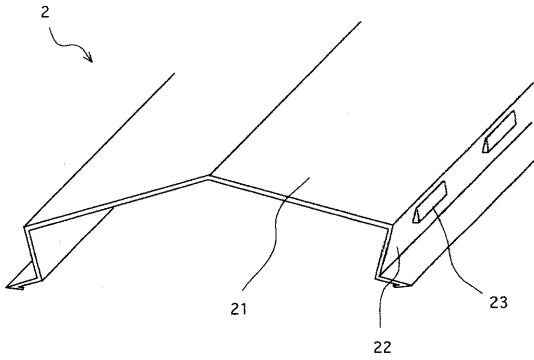
- 1, 5 換気棟用台材
- 2, 6 棟部材
- 11 頂部支持台
- 11a 結露防止シート
- 12 脚部
- 12a 防水シーラー
- 13、63 側部支持台
- 14 通気口
- 15 水抜き穴
- 23 通気口
- 31 屋根基材
- 33 通気口

20

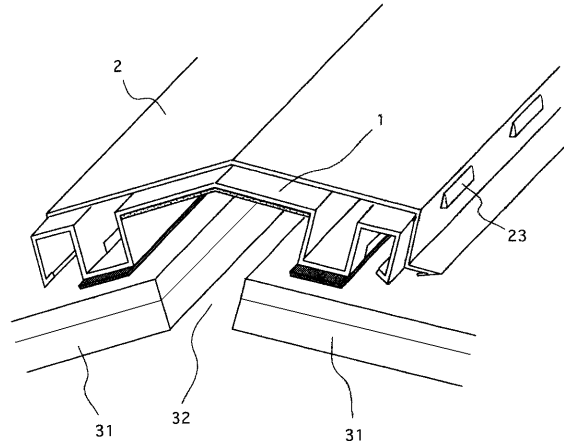
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

